

いわかけ

— No. 111 — 2007, 8, 12

広島大学文学研究科考古学研究室・
帝釈峡遺跡群発掘調査室



2007 年度 帝釈峡遺跡群・庄原市佐田峠墳墓群発掘調査 I 期 (8月 5 日～8月 12 日)

帝釈大風呂洞窟遺跡第 12 次調査

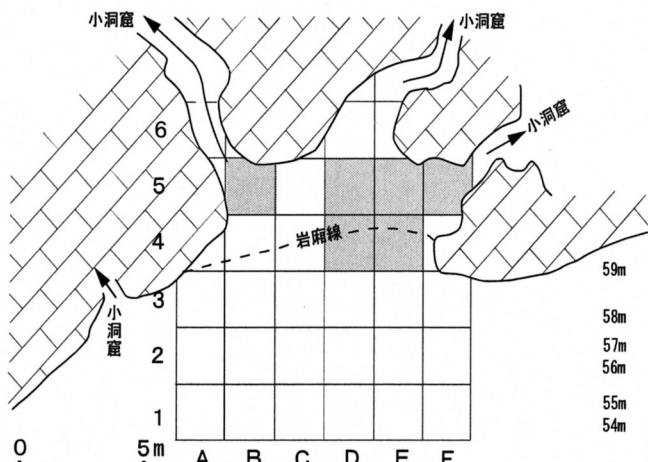
本遺跡は、広島県神石高原町永野字大風呂に所在し、帝釈川の支流である岩屋谷川の左岸、観音堂洞窟遺跡のほぼ真上に位置しています。遺跡の標高は約 460 m で、川床面から約 56m の高さにあります。洞窟は南に開口しており、間口幅は約 11m・奥行きは約 4m です。岩廂の高さは 3～3.5m で、テラス面の広さは約 40 m²

です。これは直径 5～6m の竪穴住居の床面積に相当する広さです。洞内には現在、3 つの小洞が存在しており、東側の洞窟は奥行き約 17m、西側は約 9m です。

この遺跡は現在のところ縄文時代草創期から古代・中世にかけて断続的に利用されていたと考えられています。また、本遺跡のほぼ真下にある観音堂洞窟遺跡とは、密接な関係があったと推測できます。

昨年度までの調査では遺跡の第 2 層の調査を行ってきましたが、古代から中世の炉跡などの遺構が重複して出土しており、この間数時期に亘ってそれぞれ短期間利用されていたことが明らかとなっています。

本年度の調査では、引き続いて遺跡の東半の調査を行いますが、残っている第 2 層の調査を行い、その後、縄文時代後期の層である第 3 層の平面的な調査を目標として



第 1 図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図

(網掛け部が今年度の調査予定範囲)

の調査を行い、その後、縄文時代後期の層である第3層の平面的な調査を目標としています。当面は他の区と比べ、掘り下げが進んでいないE-4区とF-5区を中心に掘り下げを行う予定です。遺物としては、D-4区で昨年度除去した崩落礫の下から弥生中期の土器（壺？）が出土しました。これまで当遺跡では弥生時代の生活痕跡は見つかっていなかったので、これらの土器の出土は非常に重要なものと言えます。また、一部の調査区では縄文時代の層が見えはじめており、今後はこの層の調査を進め、縄文時代の生活空間を明らかにしていく予定です。

（兼弘奈津枝）



帝釈大風呂洞窟遺跡の作業風景

コラム1 帝釈での生活

帝釈で私が生活を始めてはや四日間である。初めての帝釈生活で不慣れなこともたくさんあった。大学生活では触れないような自然 十数名を超える人達との共同生活など、考古学以外にも学ぶべきことは思った以上に多かった。しかしながら、同じように考古学を志す人々と協力して過ごす生活は本当に充実を感じるものである。とりわけ初めてテレビで見るような発掘を自らも行い、遺物を発掘した時は感動を覚えた。このようなことはこれからもたくさんあるだろうが、感動を忘れずに考古学の勉強に邁進していきたい。（2年 谷本光紀）

コラム2 初めての発掘

今回私たちは、大風呂遺跡と佐田岬墳墓群の二つの発掘作業に参加しました。そして私は特に佐田岬墳墓群の方を中心に調査をしました。発掘というのは私のイメージと違ってとても細かい作業でした。測量をしたり、高さを測ったり、薄く土を削っていました。大変細かい作業でしたが、帝釈大風呂洞窟遺跡で弥生土器のかけらを見つけた時はとても感動しました。初めての発掘はとてもよい経験になりました。（2年 竹内琢也）

佐田峠墳墓群（さだだおかんぼぐん）

本遺跡は庄原市宮内町に所在する弥生時代の墳墓群です。庄原市の試掘調査によって発見された四隅突出型墳丘墓の一つで、遺跡の保護と活用を目指して今年度から広島大学考古学研究室の調査が始まりました。

四隅突出型墳墓とは、長方形の墳丘の四隅の角が外側に突き出した形をしています。これは弥生時代の中期から後期にかけての、今からおよそ2000年ほど前に中国山地から山陰、さらには北陸地方にまで広がった墓制で、このような四隅突出型墳墓は時代とともに徐々に形状を変えてゆき、最後には一つの突出部のみが残って前方後円墳に変化したともいわれています。

また遺跡のすぐ南には、同じく四隅突出型の佐田谷墳墓群があります。佐田谷墳墓群のものは突出部が小さく張っているのみで、四隅突出型墳丘墓の初現期のものであると考えられています。一方佐田峠墳墓群は、以前行われた試掘調査によると、少なくとも3基の四隅突出型墳丘墓が確認されていますが、これらの墳丘の形状や採集された土器などから佐田谷墳墓群と近い時期に作られたものではないかと考えられています。こうした佐田谷墳墓群との関係性を調べることも、今回の調査の目的の一つなのです。

さて今年度第Ⅰ期の調査では、まず庄原市教育委員会により調査地区の草刈り及び清掃をしていただき、それと並行して調査区域の詳細な地形測量を行っています。考古学の調査というと、どうしても発掘によって遺物や遺構を掘り出したりすることが中心に思われてしまいますが、その前段階としての地形測量もとても重要なものです。調査地区的詳細な地形図がなければ、墳墓の位置や遺物の出土状況などを正確に測ることはできません。今年度に精密な地形図を作製することが出来れば、来年度以降はそれが基盤となって発掘調査が行われることになるのです。

今年度が調査第1回目ということで、まだ色々と手間取ることも多いのですが、これから精一杯調査を行っていくつもりです。今後の成果にご期待ください。

(齋藤友紀)



佐田峠墳墓群の調査風景

コラム3 帝釈産の動物化石

私は帝釈峡遺跡群の発掘に、愛知教育大学の学生として今回を含めて、計3回参加させて頂いています。その度に広島大の学生方が遺跡で発掘した多量の土砂から出てくる土器・石器などを探し出していく様を見て驚かされるとともに、少しの親近感が湧いてきます。私の専門分野は小型哺乳類の骨化石についての研究なのですが、それらの化石を見つけるのも多量の土砂の中から、一つ一つ探し出していくケースが多いからです。

帝釈峡遺跡群から出土する遺物といえば土器・石器などの人工遺物が目玉ですが、自然のものである動物骨化石も、化石を研究する古生物学分野から見れば重要な遺物です。骨といえば一般的には不気味なイメージを持たれがちですが、あらゆる脊椎動物の身体を支えるのに必要不可欠なものです。例えばヒトの骨は大小合わせて約200個あるのですが、その一つ一つの形や名前は異なり、それぞれの機能も違います。その一つでも名前や機能を知ってから、その骨を見れば同じ骨でも見る目が変わってくることでしょう。骨に少しでも興味を持って見ていただければ、帝釈峡遺跡群の遺物をより面白く知ることができるのではないかでしょうか。

(愛知教育大学研究生 波木基真)

コラム4 帝釈峡で感じることができたもの

僕は一日目、二日目で二つの異なる遺跡の調査に参加させていただきました。八月六日は佐田峠墳墓群、そして八月七日は大風呂洞窟遺跡の調査に参加しました。帝釈峡での生活で、普段の生活にはないものを多く感じることができました。帝釈峡周辺の遺跡はどれも奥深い山の中に立地しており、その中の作業は大学内の実習にはない困難さ、そして楽しさを伴うものでした。作業は体力を要するものも多々ありましたが、その分発掘で出土したどんな些細な遺物からも新鮮な感動を味わうことができました。そして何より、宿泊所に残された数々の遺物にこれまでこの帝釈峡遺跡群発掘調査室を訪れた先輩方が積み上げてきた歴史を感じることができました。発掘の日誌や数々の遺物、無数の傷のついた調査機材や、少し傷んでいる調査室はこれまで帝釈峡で汗を流したたくさんの人々の歴史を物語っているように見えました。宿舎に残っている古い日記に今回の発掘に参加していらっしゃる先生のお名前を見つけた時は、何だか不思議な気分でした。自分たちの帝釈峡での発掘や生活の記録がいつまでも残るものであるということに、恥ずかしながらこの時初めて気付かされたのです。自分が帝釈峡調査の一ページを担っているという自覚を持ち、これから調査から多くのことを学び取りたいと思います。

(2年 板木達也)

人物往来

(8月9日) 広島大学文学研究科 富永研究科長、川西主査、龍王主査

参加者名簿（I期 8月5日～8月12日）

広島大学大学院文学研究科 教授 古瀬清秀

〃 准教授 竹広文明

〃 准教授 野島永

〃 大学院生 斎藤礼・松波静香・山手貴生（以上M1生）

広島大学文学部学生 兼弘奈津江・斎藤友紀・谷真由美・森賀康太

（以上3年生）

板木達也・竹内琢也・谷本光紀・細石朋希・三輪宜生

（以上2年生）

愛知教育大学大学院研究生 中川良平さん・波木基真さん

陣中見舞い（50音順）

地元の皆様方

池田さん 野菜

井上さん 野菜

久保田さん 野菜

滝口さん 野菜

田辺さん おもち

白根さん ビール

富永研究科長 金一封

地元の皆様には、物心両面で多々ご支援いただきました。最後になりましたがお礼申し上げます。ありがとうございました。

編集後記

本年度も帝釈峠遺跡群の調査が始まりました。今年は帝釈峠の遺跡とともに庄原の墳墓群の調査も行い、広島県県北の歴史の解明にさらにまい進していきたいと考えております。機会がございましたら調査を行っている遺跡のほうにも足を運んで下さい。私ども一同首を長くしてお待ちしております。

本年度もよろしくお願ひします。

（編集 山手）

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3 (Tel : 0824-24-6663)

帝釈峠遺跡群発掘調査室 〒729-5554 庄原市東城町帝釈未渡野田原 (Tel : 08477-6-0101)

研究室ホームページ URL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>